

# 千刈狸の呟き

狸穴（まみあな）狸の穴倉の床や壁がシロアリでやられてしまい、修理することになりました。そこには大量に本が積まれてあり、本の一部もシロアリのおかげでぼろぼろになったため、蔵書の大処分を執行しました。まず医学書に関しては、あれほど高価であった専門書もいまでは内容が古くなり、紙屑同様に廃棄。捨てるに忍びない本があるものの、中身を見ると既に疾患概念が変わり、分類も大きく変わり、治療法も内容的に殆ど役立たずで多くの本を処分しました。これらの本に使ったお金を宝くじの購入に充てていけば、今頃は何億円か当たっていたかもしれないと思いながら泣く泣く捨てました。時代を経た専門書が、これほど役に立たなくなるのかと驚きました。内容が変わっていないのは、解剖図譜くらいでしょうか。最近では電子版やCD-ROMも充実しており、今後はそちらへ移行することも考えております。

処分に困ったのは〇〇教授退官記念業績集、〇〇名誉教授業績集等で、このような業績集は大判でハードカバーで固いケースに囲われているためか無傷であり、シロアリに食われていれば廃棄となるのですが結局は〇〇する事にしました。医学雑誌は殆んど捨て必要な時にはネットで文献を注文することとして、コピーした多くの論文・資料も大量の紙屑へと変化しました。講演や学会の際に取ったメモノート、日記なども出てきましたがざっと目を通すと汚い文字が並んでいるのですぐに廃棄の袋へ投入。個人情報に記載しているものやカルテのコピーは手動でシュレッダーにかけていましたが、担当していた連れの手が痛くなり電動のシュレッダーを購入しました。最近では、コンピューターに入っていた個人情報がメールに添付されていたウイルスにより流出する事件が報道されており、気をつけなければなりません。ただし、コンピューターを廃棄する場合はハードディスクを物理的に破壊すれば一発で情報が消滅するので、紙情報をシュレッダー処理するよりは今後は楽でしょう。

高校の同級生が、「在学中の三年間で岩波文庫を百冊読むぞ！」と叫んでいたことに刺激され文庫本を読み始め、岩波・新潮・角川文庫等頑張っ

## ～断捨離～

### 狸穴狸

て読みましたが高校時代には百冊読破はできませんでした。その後も文庫本は買い続けていたので、次第に増え百冊は軽く超えています。しかし、今はその本のほとんどが変色してしまい、古書店では引き取ってもらえませんでした。ハードカバーの本や全集本も同様で、これらもゴミとして出しました。考えてみると最近では、文庫本を読まなくなりました。捨てる前に昔の文庫本を見ると、文字が小さく今では読めません。文庫本以外でも本を読んでないことが実感させられたので、まず、読まなくなった原因の一つである視力調整の為、読書用のメガネを誂えました。そして何事も恰好から入る為、見た目が良いだろうと革製のブックカバーも買いました。革のブックカバーを付けた「老子」と「枕草子」を一日一章・一段ずつ読み始め、「老子」は終了しましたが、「枕草子」は原文でスタートしたため挫折しました。気になる本はアマゾンや列車に乗る前に駅の本屋さんで購入し、昔の読書量に近づくよう努力しております。読書好きの方の中には、休みの日には鈍行列車に乗り読書をしながら適当な駅でUターンし一日を過ごすという趣味もあるようで、ついでに温泉に入り帰りにはビールでも飲みながら戻るというのも良い休日の過ごし方かもしれません。

話を元の本の整理に戻します。文庫本もその他の本も何人かの著者の物を残し、大整理しました。ハードカバーの立派な本もありますが、変色していれば古書店では引き取ってもらえません。病院へ図書として寄付することも考えましたが、古いものでは失礼だろうと思い断念しました。こうしてほとんどの本はゴミとなり、今頃は煙となって既に天に昇った後だろうと思います。おかげで狸穴狸の穴倉に残った本は五分の一程になり、広々とした空間が出来ました。「断捨離」の著者によると、「断捨離とは、モノへの執着を捨てること。身の回りをキレイにするだけでなく、心もストレスから解放されてスッキリする。」ということで、大量の本を処分した後にシロアリ被害の跡を修復し、あたかもコンピューターゲームをもう一度リセットしたようなさわやかな気持ちで、新しい穴倉の床に寝転び新刊本を読む狸でした。